

「小川としゆき、吠える！」

市「子どもの増加、想定超え」

人口が急速に増えている守山区の志段味地域で二〇二二年四月に市が新設した上志段味小学校が、開校わずか一年で増築の準備に取り掛かることになりそうだ。一・二年度時点で教室の余裕がゼロになる見込みのため、新設校なら余裕を持って教室を設けられる気がするが、なぜこんな事態に？（白名正和）

市教育委員会の担当者によると、開校すぐの増築は「少なくとも過去二十年間で一度も起きていない」という。十四日の市議会財政福祉委員会で小川俊之議員（民主）が「開校してすぐの増築はおかしくないか」と地元の声を代弁する形で質問。市側は「あつてはならない」と答弁した。

上志段味小は昨年四月、宅地開発で人口が膨らみ児童数が増えた志段味東小から分離して誕生。少子化に伴う小学校の統廃合が進む中、市立

守山区の上志段味小

約三十六億円で新設された校舎は鉄骨三階建て。教室数二十五に対し、現在は児童六百二十四人が二十三室を使う。二年度は二十五室児童六百六十六人ととなり、教室の余裕がゼロ。二四年度には二十九室（同七百六十八人）で四室も足りなくなる。

「このままでは、児童がプレハブの仮設校舎で授業を受けなければならなくなる。そのような事態を避けるため増築に取り掛かる」と小川真一



小川議員は「増築工事が日中に行われれば、子どもの授業にも支障が出かねない」と指摘。小川課長は「できる限り、子どもに迷惑がかからないための方策をとっていく」と応じた。市は二年度中に増築の設計に取り掛かり、国からの補助を得て、三年度に工事を始める方針だ。

開校わずか1年 増築準備

少子高齢化といわれる時代において、守山区は子どもがどんどん増えている本場にありがたい地域。本来なら子ども視点に立つべき行政が、開校わずか一年目の小学校ですでに教室が足りなくなるというずさんな計画に小川としゆきが吠えた！

・市教委は当初、開校時点で使う教室を二十室と想定していたが、実際は二十三室だった。事前の見通しが甘かったのではないかと疑問に、小川課長は「想定よりも子どもの増加数に勢いがあつた」と説明する一方、別の要因も挙げる。

「特別支援学級の児童数も想定より多く、使う教室数が増えた。国が急ぎよう方針を示した少人数学級にも対応するため、さらに教室が必要になった」

小学校の校舎の建設では、人口データを基に着工から三年分の児童数を推計して教室数を設定すれば、国が工事費の半分を補助する。一方、推計以上の教室を設ける場合は、市が単独で工事費を負担する必要があり「予算の面から難しかった」。

中日新聞掲載

小川としゆき



Vol.44

TOPICS

- ①「先回りの対策を講じる！」
- ②「コロナ対策以外にも全力で取り組む！」
- ③「小川としゆき、吠える！」



1976年 守山区生まれ(46歳)
成城大学経済学部を卒業、
古川元久衆議院議員 第一秘書を経て
2007年 名古屋市議員選挙当選(現4期)
副議長、議会運営委員長、監査委員を歴任

「先回りの対策を講じる！」

ここ数年、新型コロナのニュースを目にしないことがない日が続いており、長引くコロナ禍の中で、マスクの下の笑顔が減ってしまっています。こうした中で、医療体制の確保やワクチン接種の推進などの直接的な感染対策はもちろんのこと、皆さんの心や身体の健康維持のための施策、事業者の方々が仕事と雇用を継続するための経済的支援などの課題にも鋭意取り組んでまいりました。

それでもなお、コロナの影響により「外出機会の減少による高齢者の体力の衰え」「子ども達の心のケア」「お客さんが戻って来ない中での商売の大変さ」など、生活への不安の声を、皆様から多く頂いております。さらに、ここ数年は虐待や自死といった悲しく痛ましい出来事など、コロナの影響を受けている事案が増加傾向にあります。

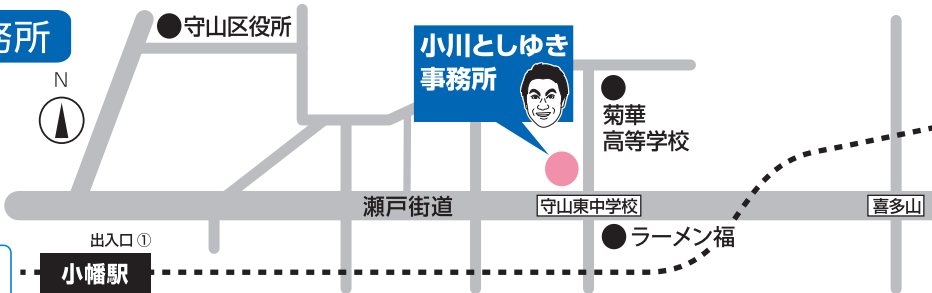
こうした喫緊の課題にもしっかりと目を向け、問題が起きた後ではなく、先回りして様々な対策を講じておかなければなりません。

将来やこの先何が起こるかを見据え、前向きで明るくなれる施策や制度を創ることが議員の使命です。

マスクを外した皆さんの笑顔を見られる日が一日でも早く来るよう、その日の到来を信じて、引き続き全力を尽くします。

市議員 小川としゆき

〒463-0011 小川としゆき事務所
名古屋市守山区小幡5丁目1-26
TEL:052-797-0160
FAX:052-797-0161
メール:info@ogawa.in



※小川としゆき事務所では、皆様からご提供いただいた個人情報を、より良い政治活動の実現や小川としゆきよりの情報をお届けするためのみ使用いたします。配布をご希望でない方、名簿よりの削除をご希望の方は、お手数ですがご連絡下さい。

「コロナ対策以外にも全力で取り組む！」

給食費の補助や中小企業への支援策を実施

原油や物価の高騰という状況のなかでも給食費を値上げすることなく、食材費への直接補助を要望し献立の水準を現在も維持しています。一方で飲み残しが多い牛乳代（56円/1日）を市が負担することによって給食の質をさらに向上させることを私たちは求めています。

また原油・物価高の影響が直撃している中小企業に対しては、新たな事業展開への設備等の経費を補助するよう要望し、実施となりました。



物価高が給食影響補助など対策要望
民主市議団が市に
市議会の名古屋民主市議団は十八日、政府が創設する臨時交付金を活用し、物価高が小学校などの給食に影響しないよう対策を講じることなどを市に要望した。河村たかし市長は「子どもが幸せになるのは大事」と、前向きに検討する姿勢を示した。

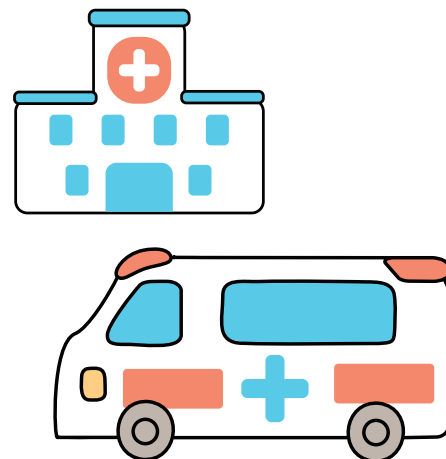
量を維持するような補助を要求。また、小学校については牛乳代に該当する一日五十六円分を臨時交付金の質を保つよう提言している。
市教育委員会の安藤穂・学校づくり推進監によると、臨時交付金は市全体で四十八億円の見通しだが、このうちからの程度給食費に充てるかは未定という。「六月の市議会に必要な議案を提出できるように検討を急ぐ」と説明した。

中日新聞掲載

救急搬送のスピード、日本一

小川としゆきは「一人でも多くの命を救うため、IT活用やハード面の構築によって救急搬送の時間短縮を！」と長く取り組んだ結果、名古屋市の救急隊は「119番通報から医療機関への搬送時間」が政令市の中で最も短くなりました。

コロナ禍にも関わらずここ名古屋では医療機関と救急隊が強固な連携と並々ならぬ努力により、今日にあっても“日本一の救急サービス”が提供されています。



市内宿泊の半額補助

「シャチ泊」

コロナ禍で低迷する観光業を支援するため、宿泊料金の半額（5000円を上限）を補助することが市議団の要望により来年2月末まで実施へ！

<https://shachi-haku.com>



令和4年10月スタート

40歳～59歳が対象

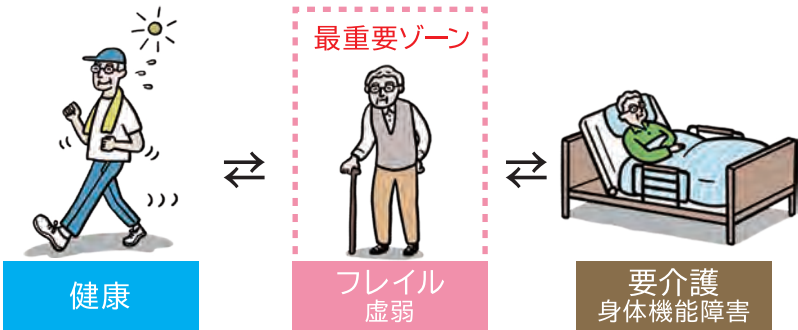
胃がんリスク検査が血液検査で行えるようになります。

胃がん検診として、これまで名古屋市は500円でエックス線(バリウム)や内視鏡(胃カメラ)での検査を行ってきました。今後は、こうした検査に不安を覚える方の負担軽減につながるよう、先に血液検査で胃がんのリスクが検査できるようになります。

令和5年2月スタート

スマートフォンを活用したフレイル予防を!

「フレイル」とは加齢により気力・体力が徐々に落ちた要介護一歩手前の状態のことです。放置すると介護が必要になります。フレイルに早く気付いて予防することで、健康な状態に戻ることが期待できます。コロナ禍における高齢者の外出機会の減少による心身機能の低下や、対面での見守り活動の実施が難しくなっていることから、スマートフォンを活用した効果的なフレイル予防や地域における見守り活動を推進します。



ICTを活用したフレイル予防・見守り事業 (アプリ作成)

■フレイル予防

対象	40歳以上の市民
内容	フレイル予防に取り組むインセンティブとして、活動に応じてポイントが貯まる ※年間上限3,000ポイント (1ポイント=1円の電子マネーに変換)
ポイント付与の取り組み例	介護予防に関するセミナー等への参加やアプリ内での体操動画等の視聴

■見守り

対象	65歳以上の市民
内容	あらかじめ登録した家族や支援機関等に活動状況等をお知らせする見守り機能